

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 5 月 28 日現在

機関番号：32641

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19K01483

研究課題名(和文)現代日本の政党間競争：棄権者を組み込んだ交換ネットワーク理論と契約理論による分析

研究課題名(英文)Party Competition in Contemporary Japan: An Analysis Using Exchange Network Theory and Contract Theory Incorporating Abstentionists

研究代表者

三船 毅 (MIFUNE, TSUYOSHI)

中央大学・経済学部・教授

研究者番号：00308800

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は自由民主主義体制における選挙を、コールマンの「行為の線型モデル」を援用し、有権者と政党・候補者の投票と政策の交換のメカニズムを解明することを目的としてきた。

研究対象は大別して2つある。1つは、政党間競争のメカニズムである。政党はときに分裂することがある。経験的に政党が分裂するときは、選挙の直前が多い。この状況をフォーマルモデルから検証し、選挙直前に分裂する方が勢力を減少させるリスクを低下させることを検証した。2つめは、棄権の影響である。棄権の増加は、選挙時に議会勢力が第1党である政党を優位にすることを、フォーマルモデルから検証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、これまでの選挙の空間理論の新しい枠組みに変換したことである。従来の選挙の空間理論は、ユークリッド空間において政策空間を設定し、政党と有権者の距離を基にモデルを作成した。このモデルは、政党間競争、有権者の投票行動をフォーマルモデルとして考察する上で、より柔軟なモデル構築を可能にした。

本研究の意義は、コールマンの「行為の線型システム」を援用して、自由市場において投票と政策の交換を基礎とするモデルを構築したことにある。モデルから得られた「棄権の増加は選挙において政権与党を優位にする」という知見から考えると、本研究の社会的意義は有権者の投票行動の脆弱性を明らかにしたことである。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study has been to elucidate the mechanism of the exchange of votes and policies between voters and parties/candidates in elections in liberal democracies, using Coleman's linear model of action.

The first is the mechanism of inter-party competition. Parties sometimes split. Empirically, parties often split just before elections. We examine this situation in a formal model and find that splitting just before an election reduces the risk of losing power. Second, we examine the effect of abstention. The formal model verifies that an increase in abstentions gives an advantage to the party whose parliamentary strength is the first party at the time of the election.

研究分野：政治過程論

キーワード：選挙 棄権 フォーマルモデル

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

政党間競争のフォーマルモデル，選挙の空間理論は，ダウنزの理論を中心にユークリッド空間を基礎とした政策空間のモデルとして構築されてきた。

しかし，ダウنزのモデルをはじめとした選挙の空間理論では，有権者の投票と政党の政策の交換によるものとして，選挙を自由市場経済に擬えといえる。しかし，選挙の空間理論では，決定論的モデル，確率論的モデルにおいても交換過程を精緻に描くことはできていないのである。そこで，社会における様々な交換を描くことが可能な，J.コールマンによる「行為の線型モデル」を援用して，選挙過程のフォーマルモデルを構築し，選挙および政党間競争の様々な事象の背後にあるアクターの行為の論理を明確にすることより，選挙研究に新たな分野の開拓を試みることも可能であり，混沌とした現代日本政治を解明する糸口になると申請者は考えたことが背景である。

### 2. 研究の目的

本研究は，2012年から2017年現在までの自民党1強の日本政治の状況を，政党間競争と有権者の相互作用の結果と捉え，そのメカニズムを考察し民主主義に合わない問題点を明らかにすることを目的とする。戦後日本の基礎となっていた安全保障政策の転換，競争をあおる一方では有権者に阿る政策，自民党政権の過ちを追求できない野党，近年50%台の投票率の衆議院選挙など，歪んだメカニズムが顕在化している。政党間競争の研究はこの10年で大きく進展しており，理論的枠組みも多く提示されている。しかし，全有権者の政治意識・投票行動を，それらのモデルに組み込む事に消極的であった。本研究は，サイレントマジョリティとしての棄権者も積極的に分析モデルに組み込み，現代日本政治の歪んだメカニズムが自民1強の存在に寄与していることを交換ネットワーク理論による演繹モデルで表現し，構造的因果推論モデルからデータで検証する。

### 3. 研究の方法

政党間競争の動態を著すモデルとして，ネットワーク分析，グラフ理論，交換理論からなるColeman(1990)の交換ネットワーク理論を拡張し援用する。これは行列の代数演算により均衡を導出できるので，単純明快である。さらに，演繹理論を精緻化するために交換ネットワーク理論とゲーム理論を融合させた理論体系を構築する。演繹理論には幾つかの仮定が必要となるが，論理は明快である。よって，この理論体系から代議制民主主義という枠組みの中で政党はそれに適った行動を選択しているのか，それとも代議制民主主義の枠組みを逸脱した行動を選択しているのかを明確する。さらに，(1)選挙，(2)政策形成，(3)分裂・新党の3つの事象を一連の事象として関連性をもたせて，議会政治過程の動態を克明に記述するモデルを構築する。このモデルから，議会政治における3つの事象の連関がどのようになった場合に，政治的停滞，非合理的な政策形成が起こり，負の連鎖(失われた20年，決められない政治)，自民党1強政治の誕生を理論的に分析する。さらに，交換ネットワーク理論はグラフ理論により表現できるから，構造的因果推論でデータによる検証も可能となる。

### 4. 研究成果

三船毅(2019)「有権者の政策空間の変容と参加」新原道信・宮野勝・鳴子博子編『地球

社会の複合的諸問題への応答の試み』中央大学出版部。

本研究は交換ネットワーク理論を基礎にゲーム理論も応用することから、派生的研究も行い研究の幅をひろげて実証分析に関しては、政党間競争における選挙における集票構造を、グラフィカルモでリングにより因果構造をモデル化し、棄権の増加と投票率が低水準になる構造を分析した。またサーベイデータを用いて有権者の政策選好から構成される政策空間の一部が超保守的な有権者により歪められ、それが政党間競争に及ぼす効果を分析した。

三船毅(2021)「選挙過程の理論」宮野勝編『有権者と政治』(2021)

本研究は交換ネットワーク理論を基礎としており、「選挙過程」というシステムに内在する機能を理論的に分析した。公共選択論では、市場の失敗と並んで「政治の失敗」が論じられてきた。つまり政治的決定は非合理的要素を多分に含む可能性を示唆してきた。選挙過程を市場の交換になぞらえると、選挙は本来、政党の政策と有権者の1票の交換である。しかし、実際には有権者の動員などが行われ、政党による政策の主張による有権者の票の獲得は二の次になることも多く、民主的な理念とは乖離している。しかし、選挙過程を交換ネットワーク理論で表現し分析すると、政党による有権者の動員は必ずしも政党にとって勢力拡大には繋がらず、限界があることを示した。

三船毅「格差社会と投票行動の構造変化」『中央大学社会科学研究所年報』第25号、137-160頁。

本研究は政党間競争における投票行動の実証研究である。1976年代から2017年までデータから、21世紀になり格差社会と対外的脅威の拡大により、有権者は「安全保障」で保守的態度を選好しつつ、「福祉・平等」では革新的態度を選好する傾向を示し、政策イデオロギーの空間に歪みを生じさせていることを検証した。

「政策選好の変容と投票行動」飯嶋大邦編『人口と公共政策』

三船毅(2022)「政策選好の変容と投票行動」飯嶋大邦編『人口と公共政策』中央大学出版部。

日本社会は1990年代前半のバブル経済崩壊後、失われた30年のなかで格差社会を拡大させてきた。また対外的には領土問題や北朝鮮の弾道ミサイル発射実験等の脅威にさらされている。このような状況で日本人の政策選好の信念体系としての政策イデオロギーが1790年代から変容していることを本研究では検証した。また、日本人の政策イデオロギーは保守・革新イデオロギーを基底としているが、保守・革新イデオロギーの一貫性が低下していると論じられてきた。本研究では、その一貫性がさらに変容していることを、「安全保障」と「福祉・平等」などに関わる政策イデオロギーから検証した。日本人は「安全保障」で保守的態度を選好する人は「福祉・平等」でも保守的態度を選好しており、一貫性は弱体化しつつも残存していた。しかし、21世紀になり格差社会と対外的脅威の拡大により、有権者は「安全保障」で保守的態度を選好しつつ、「福祉・平等」では革新的態度を選好する傾向を示し、政策イデオロギーの空間に歪みを生じさせていることを検証した。この傾向は特に自民党に投票する若年層にみられ、彼らは「福祉・平等」政策は合意争点であるから、「安全保障」政策を重視して投票行動を決定していることを併せて検証した。

三船毅(2024)「棄権が政党間競争に及ぼす影響」『法学研究』第97巻第2号, 290-329頁.

本研究は有権者の棄権が政党間競争に及ぼす影響をフォーマルモデルにより理論的に分析することである. 本研究を開始する前には, 政治参加, 投票参加, 投票率の低下について, いくつかの論文, 著作を発表してきた. そのなかで解ったことは2つある. まず, 投票参加に関しては実証研究ではその要因が詳細に検討され, 理論研究では投票か棄権かを決定する均衡がモデル化されてきたことである. しかしながら, 参加の対極である棄権に関しては, 政治過程, 選挙過程に対して如何なる影響を及ぼすのかについては理論的, 実証的にも研究されていないのである.

これらの問題を解明するために新たなモデルの基礎を J. Coleman(1973, 90)の「行為の線型モデル」とした. このモデルは過去においては「交換ネットワークモデル」と紹介されたこともある. 彼のモデルは, 経済的交換や様々な社会的交換において発生する勢力(権力)のメカニズムを考察し実証研究にも適用可能なモデルである. このモデルを適用して解明されたことは, 以下のことである. 2つの政党, 政党 A と政党 B があり, もし A 党よりも B 党の政策に対する有権者の関心が大きな比率で低下するならば, 勢力比はさらに小さくなり, 政党 A 党の勢力は安定して相対的には拡大しているのである. つまり, 現実の政治に即して考えるならば, 政権交代が起こり難いような国家では, 長期的な棄権率の増加は第 1 党(与党)の勢力を安定強化させてしまうのである.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 三船毅	4. 巻 第25号
2. 論文標題 格差社会と投票行動の構造変化	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中央大学社会科学研究所年報	6. 最初と最後の頁 137-160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三船毅	4. 巻 第97巻第2号
2. 論文標題 棄権が政党間競争に及ぼす影響	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 法学研究	6. 最初と最後の頁 290-329
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計3件

1. 著者名 三船毅	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中央大学出版部	5. 総ページ数 43
3. 書名 「政策選好の変容と投票行動」飯嶋大邦編 『人口と公共政策』	

1. 著者名 三船毅	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央大学出版部	5. 総ページ数 31
3. 書名 「選挙過程尾理論」宮野勝編 『有権者と政治』	

1. 著者名 三船毅	4. 発行年 2019年
2. 出版社 中央大学出版部	5. 総ページ数 37
3. 書名 「有権者の政策空間の変容と参加」『地球社会の複合的諸問題への応答の試み』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------